

買い物弱者支援事業の社会的効果と 経済効果の推計

中山 徹郎

【要旨】

近年の高齢化社会における深刻な社会問題の1つに「買い物弱者問題」がある。昨今はメディアでも多く取り上げられており、注目されている社会問題である。その注目故にすでに対策も多く実施されており、農林水産省、経済産業省、地方公共団体などの支援を受けて「買い物弱者支援事業」が全国各地で行われている。しかし、支援事業の赤字率は7割と言われており、採算性と継続性に大きな課題を残す。行政からの支援が途切れれば、支援事業の打ち切りが増えるであろう。しかしながら、支援事業者を対象とした研究は数多く行われているものの、支援する立場の行政側の視点から考察した研究はほとんど行われていない。当研究は支援事業の経済的効果と社会的効果を推計することを目的とし、「認知症患者減少人数と公的支出削減額」「交通事故減少数と減少可能な経済損失」「人口流出入への効果」の3つの数値を計算した。

【講評】

本論文は、買い物弱者支援事業の効果測定という、学術的にも社会的にも意義のある課題に対して、多様な二次データを用いて検証を試みている。この論文の優れている点は3点である。まず問題意識と課題設定である。これまでも買い物弱者や支援事業に焦点を当てた研究はあるものの、その効果に関して社会的、経済的両面から推計しようとした研究はなく、非常に新規性が高い。2つめは、研究方法と分析である。本研究では支援事業がもたらす効果を医療費の削減、交通事故の減少、人口流出の削減という効果を多様な統計二次資料を使って分析している。一般的に卒業論文では課題に対応した二次資料そのものの提示にとどまることが多いが、本論文は複数の統計解析手法を使って改めて分析している。3つめは論理展開の明快さである。興味深い課題を、適切なデータ収集と分析手法で検証、結論を導くという、学術論文作成の正しい手順をしっかりと踏んでいる。変数設定など分析の前提や処理に関する課題はあるが、非常に高い水準の論文である。よって優秀卒業論文にふさわしいと判断した。